

やっているうちに好きになる（かも）

鈴木 早苗（教養学部）

進学選択を迷っているみなさんのなかには、「どんな分野が好きなのか分からない」、「興味ある分野が複数あって一つに決められない」といった悩みを抱えている人もいます。そんなみなさんの参考になる内容を書けるか分かりませんが、私の経験をふまえて、二つのメッセージをお伝えしようと思います。

「進学希望先を決める理由はさまざま」

私は、1995年に教養学部文科Ⅲ類に入学したとき、国際的に活躍したいという気持ちと、西洋史への興味が同居していました。そこで前期課程では、西洋史と国際関係に関する科目をいくつか履修しました。自分がどちらの分野に関心があるか確かめようとしたのかもしれませんが。その意味で、前期課程において幅広いテーマで授業が提供されていることはありがたかったです。欧州統合（EU）の授業をとり、国際関係論の中でも地域統合という現象に興味を抱いたことを覚えています。でも、一番楽しかったのは、西洋史を学ぶのに欠かせないラテン語でした。ラテン語の音の響き、カエサルが登場する文章、本当に楽しかった。だから、西洋史（文学部）に進学しても後悔しなかったと思います。

それでも国際関係を第一希望に選びました。その

理由は何か。当時、教養学部の教養学科第三・国際関係論分科は人気があり、競争率が高かった。負けん気の強い私は、その競争に打ち勝ちたいという思いがあり、教養学部を第一希望にしました。いいかえれば、国際関係と西洋史どちらがより好きかという問題を棚上げしたのです。国際関係、ってなんかカッコいいな、という気持ちも正直ありました。

どの分野が好きなのか分からないときは、前期課程で少しでも興味を持てる科目を履修してみましよう。大学受験時（つまり、高校生の際に）に学部を選ばなければならない他大学に比べれば、大学に入学してから学部を選ぶという時間的猶予を与えられていることは、実はとても恵まれていることだと思います。聴講でも構いません。途中で脱落しても、駒場の先生は理解してくれ（るはず）です。

複数あって一つに決められない場合は、私のように、いい加減な理由でも構わないので、理由づけしてみましよう。たとえば、卒業後に〇〇学部だと就職に有利だとか人に説明しやすい、とか、何でも良いと思います。そんな理由で進学先を選ぶべきではないという方もいるかもしれません。そのような場合は、その分野ではどのようなことを学ぶのか納得いくまで調べたらいいと思います。その分野を専門とする先生に聞いてもいいかもしれません。

私は、大学で何を学んだかよりも、考える力を養うことのほうが重要だと思っています。その力をどの学部で養ってもいい。卒業後、大学院に進むにし

でも就職するにしても、その力は、習得した知識よりも、必ずみなさんの武器になります。

私が卒業した教養学部も、現在所属するPEAK(Program in English at Komaba)も、学際的なアプローチを採用しています。学際性は、さまざまな学問領域をまたぐことを意味しますが、一方で、経済学、政治学といった専門性を欠くという批判もなされます。しかし、私は敢えていいたい。専門バカになってはなりません。一つの学問分野を学ぶにしても、その分野と隣接する分野への関心を持ち続けてほしいです。物事をみる視野を広げることができるからです。専門性を極めたければ、大学院に進むことをお勧めします。

「やっているうちに好きになるかも」

教養学部に進学後、後期課程の授業は刺激的なものもあれば、興味を持たないものもありました。自分は興味があると思って希望して進学したのに、その興味は持続しなかったのかと思い、愕然としたこともあります。そして、大学3年のとき、駒場の留学プログラムでイギリスに留学しました。留学先で、EUの研究に触れたことをきっかけに国際関係論をもっと学びたいと思うようになり、大学院に進学することを決めました。

「好きなことをやればいい」という助言はよく聞きますし、私もその通りだと思います。しかし、それに加え、「やっているうちに好きになる」という

可能性もあることを皆さんに伝えたいです。私も、EUの研究にふれることで、国際関係論という分野が好きになりました。とはいうものの、ある学問領域が「好き」とか「興味がある」というのは実はいい加減なものかもしれません。もしかしたら、本当のところは、せっかくこれだけ一生懸命に学んだのだから、生かさなくてはもったいない、と思っただけかも知れません。

駒場に来る前、私は、日本貿易振興機構アジア経済研究所の研究者でした。東南アジアの国際関係を担当していました。最初は全く興味のなかった東南アジアという地域。業務として取り組んでいるうちに、興味が湧き、いつしかライフワークの一つになりました。好きになる対象との出会いなんて本当に縁だなと思いました。まさに、やっているうちに好きになったのです。このことを教えてくれたのは、アジア経済研究所の元同僚です。その言葉に最初は疑心暗鬼でしたが、実際に、自分の経験がその通りになった今では、やっているうちに好きになるってこともあるかも、とはいえます。

最後に、進学選択の制度においては、残念ながら、全員が第一希望に進学できるわけではありません。それは、大学受験で合格できない場合があるのと同じです。その意味では、選ばれたところが、自分のいくところ、ともいえます。

みなさんにいい出会い、ご縁がありますように。